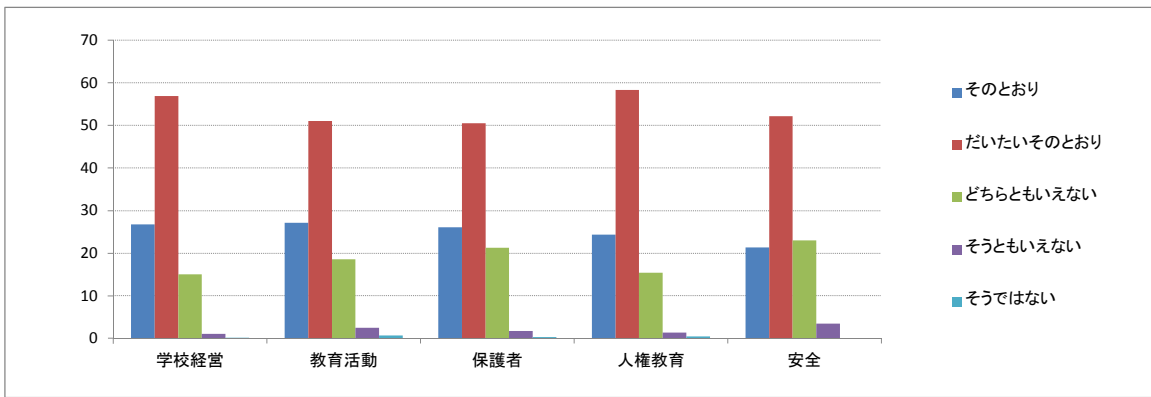


2 学校教育評価

	評価項目	自己評価	学校関係者 評価	達成状況及び改善策等
確かな基礎学力の定着	◎基礎的・基本的な学力定着、伸長のための適切な指導が計画的に行われているか。			
	児童の学ぶ意欲を引き出すために、言語活動のねらいや目的を明確にして学習活動に位置づけるなど、学習指導を工夫している。	A	A	「聞く」姿勢を中心に学習規律の徹底を図っており、ほとんどの学級で学習規律が整ってきた。しかし、一部の学級で数人の児童の私語や離席などをきっかけに授業態度が乱れた。 学習意欲が低い児童にも主体的に取り組めるような学習課題を設定する。また、学習形態に個別学習やグループ学習を取り入れて、意欲を持って取り組めるように工夫する。 家庭学習習慣を育てるために、家庭学習の手引きを使って、学年に応じた指導を進めることができた。今後も大内小学校と情報交換しながら足並みをそろえた指導・支援をすすめていく。
	全国学力調査や県学習状況調査、県版テスト等の結果をもとに、課題や発問を工夫して、思考力・判断力・表現力の育成に努めている。	A		
	特に「聞く」姿勢を重視し、学習規律の徹底に努めている。	B		
	学習時のノート指導とともに、朝の活動の時間(読書、ドリル)やチャレンジタイムを有効に活用するなど、基礎的・基本的な力の習得に努力している。	A		
宿題への取組等、統合をふまえて、大内小学校と連携しながら、学年に応じた家庭学習を推進している。	A			
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。			
	道徳を中心に、各教科等との関連を図り、豊かな心を育む教育を推進している。	B	B	道徳の教科化に向けての準備を大内小学校や他校の道徳主任と情報交換しながら教育計画の作成や評価の仕方等の検討を進めることができた。しかし、学校内での情報伝達や相互理解については、今後の課題である。特に、新たな教育計画の作成・見直しを早急に行う。 支持的な学級風土の構築に向けては、学級での差が見られるので、学校全体で考えなければならぬ。また、望ましい人間関係を作るようなスキルを育てるトレーニングについても考えていく。
	よりよい友達関係を育み、ともに励まし合う支持的雰囲気のある仲間づくりを行っている。	B		
	差別や偏見を排除するとともに、児童一人一人の自尊感情を育てる活動を行っている。	A		
	善悪を判断し、きまりを守って生活する態度を育てている。	A		
大内小学校と情報交換しながら、望ましい生活習慣の形成に努めている。	A			
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができているか。			
	体育学習において、運動への興味・関心を高め、種目や学年に応じた技能や能力の習得に努めている。	A	A	体育活動において、興味・関心を生かしつつ体力づくりに取り組ませることができている。特に、集団における体育活動において、お互いに高め合う態度を大切にしている。 保健指導、保健管理も積極的に行えており、児童の健康保持につながっている。しかし、生活習慣形成において、家庭への周知が十分でないので、啓発方法等について検討して変更していく。
	体力づくりに取り組み、自己の目標に向かって粘り強く練習する態度や体力の向上に努めている。	A		
	気になる児童への支援を継続し、どの子どもも健康な生活を送ることができる。	A		
	病気の予防や治療を進めるとともに、健康を保持、増進しようとする態度を育てている。	B		
望ましい食事の仕方や食生活習慣の定着に努めている。	A			
教職員組織と研修	◎教育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。			
	各主任を中心に報告・連絡・相談を確実にし、組織的に課題解決を行っている。	A	A	ベテラン教員や中堅教員の知識・技能を生かしながら現職教育が進められている。その反面、新しい指導法等についての取り組みが十分ではないので、検討する。 統合に向けて、大内小学校と合同現職教育や児童の交流会を実施できた。統合する学年は意識を高めることができている。今後とも、合同の会議や情報交換、交流会を計画的に実施していく。
	教育課題解決に向けて協議内容を精選し、効率的に会議を運営している。	A		
	自己の指導力の向上に向けて意見交換をするなど、積極的に現職教育に参加している。	A		
	研修内容を児童の実態に即して具体化し、児童の変容につながる指導改善に努めている。	A		
閉校、統合に向けての内容を含めつつ、校内外の研修、外部指導者の招聘等を計画的に行い、校内研究を推進している。	B			
保護者・地域との連携	◎学校教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。			
	学校便り、学年便り、ホームページ等を通して、学校からの情報を多様な方法で保護者や地域住民に発信している。	A	A	運動会、学習参観等への保護者の参加率は高く、協力的な態度で連携できている。また、地域との連携の中心となる学校支援ボランティアでは、多方面において連携・協力をいただいている。 学校支援ボランティアコーディネーターの役割が大きく、今後も連携協力をしながら、学校行事等の運営を進める。
	教育活動を充実させるために、保護者や地域住民への参加、協力を得ている。	A		
	児童の基本的な生活習慣を育成するために、保護者や地域と連携している。	A		
	おらいを明確にして、学校支援ボランティアの協力を得たり、地域教材等を活用したりしている。	A		
保護者や地域から収集した情報や意見を学校改善に役立っている。	A			
施設・設備	◎児童生徒が安全に楽しい学校生活を送れる施設・設備になっているか。			
	学校の施設や設備は、児童が快適且つ安全に生活できるように点検し、迅速に修繕できている。	A	A	児童が安全に生活できるように、環境整備を学校安全点検に基づいて行っている。また、緊急時に適切な対応ができるように、避難訓練も計画的に実施できている。 教材・教具や備品等についての点検は行われているが、有効に活用されているかと言うと、十分に活用されていないものがある。それらのものを、閉校、統合を踏まえて大内小学校と相談しながら整理したり、廃棄したりすることが今後の課題である。
	清掃や緑化、掲示に気を配り、美しく、機能的な学習環境が保持されている。	A		
	災害発生時や不審者侵入時に適切な対応ができるようにしている。	A		
	教材・教具や備品等は保管場所を指定し、定期点検や整備のもと、有効に活用している。	B		
閉校、統合を踏まえて、有効に学校予算を執行し、必要な設備や備品を購入している。	A			

評価[A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや改善の必要がある D:改善の必要がある]

3 保護者等のアンケート結果



各項目の肯定的割合・否定的割合 (%)

	肯定的	否定的
学校経営	84	1
教育活動	78	3
保護者	77	2
人権教育	83	2
安全	74	3

保護者アンケートの結果は
グラフの通りです。どの項目
でも、肯定的な回答を得る
ことができました。

4 自己評価講評

○学校教育目標の実現に向けて全職員で取り組むことができた。

・学習では、「思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の充実」を研究の中心として、各教科等の目標を達成すべく、校内で研究授業を実施した。効果的な学習活動や個に応じた支援の在り方を探る中で、理科における児童の「思考・判断・表現」の力は、県平均を上回る結果となっている。しかし、国語・社会・算数は県平均を下回っている。特に、国語は県平均を5ポイント以上下回っている。また、「基礎的・基本的な知識・技能」の習得は、国語に課題があり、県平均を大きく下回っている。今後の改善に向けての取り組みが必要である。少数指導において、算数・理科に力を入れて実践した成果が見られた反面、国語の指導における課題が明確になったので、今後の対策が必要である。

・体力づくりにおいては、朝の活動で体力づくりを継続的に行うとともに、体育的行事や体育学習につなげることで、児童の運動技能や運動に対する意欲は向上してきている。また、児童・保護者への働きかけによって、疾病予防や早期の治療で効果があがってきている。

・児童アンケートにおいては、「毎日おくれずに、歩いて登下校している」の項目で1学期に比して2学期は5ポイントの向上が見られた。また、保護者アンケートでは、「子どもは、学習にめあてをもって取り組もうとしている」「不審者対策(門扉の開閉や声かけ)は、きちんとできている」「子どものあいさつがよくできている」の項目で1学期に比して2学期は9～12ポイントの向上が見られた。人権講演会での授業や講演会の取り組みや避難訓練などの取り組みの成果が出てきている。反面、地域でのマナー(交通・あいさつ等)で、指摘を受けることもあり、一人一人に対する継続した指導が必要である。また、校外における不適切な行動などもあり、その対応が難しかった。

○学校支援ボランティアの方々・地域の方々の協力を得ることで、「キャリア教育・学校支援活動」を継続させていただいている。また、今年度も、学校開放日を設定して、児童の学習のようすや学校の施設等を自由に見てもらうことを継続している。

○学校統合に向けて、大内小学校との交流会や合同現職教育を実施した。来年度も、計画的な交流や合同の活動を取り入れていく必要がある。また、閉校に向けての活動も計画的に行わなければならない。

5 学校関係者評価講評

○伝統ある三本松小学校の閉校【学校じまい】に伴う大内小学校との統合について、学校独自の経営方針を立て、児童の基本的な生活習慣や底力をつけさせてほしいと要望してきたが、今年度、学校自体が「閉校」に向かって動き出したことをうれしく思うと同時に「ホッ」としている。

○達成状況及び改善策等の記載や表現など、もう少し検討しなければならない点があると感じる。しかし、この評価結果をもとにして課題を解消できるように、残る1年でさまざまな取り組みを期待したい。

○後1年となった来年度に、教師も児童も、保護者も、地域の人、行政も関係機関も一致協力して「閉校」できるように、学校から具体的に働きかけるようにしてほしい。

○温かな地域環境の中、児童は伸びやかに生活していると感じる。児童個々の表情や学習への意欲に、指導の成果を感じる。学校統合に向けて、児童も教員も交流を実施して、スムーズな移行への道のりになっていると思う。教職員の誠意ある取り組みを感じたので、今後とも継続してもらいたい。